

## I 学校の概要

### 1 地域について

本校区は、石垣市街地より約20km離れた北部の東海岸に位置し、大里、星野、伊野田、大野の4地区の集落から構成されている。各地区とも、終戦後、計画移民並びに自由移民として入植が行われた。主な産業は農業であるが、専業農家は少なくなり、市の中心地へ出かけ働いている家庭が増えてきた。校区全体としては山間部を背に間近に迫る海との間に挟まれた畑地が広がる純農村地域である。

### 2 学校について

(1)本校は、移民先遣隊入植半年後である昭和25年9月に、白保小学校分校として開校した。先人達の「開拓魂」によって栄え「温故知新」を校訓に、今年69周年を迎える。本校の特色として、地域や保護者との連携により児童が地域の高齢者へ本を届ける「ふれあい読書」の活動を行っている。また、学校行事や朝のボランティア活動などは、全校児童を縦割り班にし、取り組んでいる。

#### (2)教育の目標

夢と希望をいただき、たくましく生きる伊野田っ子の育成

(3)児童数：17名 学級数：3学級（1・2年，3・4年，5・6年複式）

(4)職員数：10名

## II 研究の実践

### 1 研究主題

研究指定：学力向上推進プロジェクトにおける方策1の具体的な実践に関する研究

他者と関わりながら自分の考えをもち・広げ・深める児童の育成  
～算数科を中心とした複式学級における授業改善を通して～

### 2 研究仮説

- (1)算数科の授業過程の中で、他者と関わり合いを持つ場を位置づけ、学び合いの手立てを工夫することで自分なりの考えを持ち、学び合いによってその考えを広げたり深めたりする児童が育成できるであろう。
- (2)授業の展開や学習形態を発達段階に応じて指導し、直接指導時の学び合い、間接指導時の一人学びの手立てを工夫することで、複式指導においても石垣市スタンダードを踏まえた授業実践ができ、自ら学ぶ児童の育成が図られるであろう。
- (3)互見授業を通して、音読や計算、漢字など基礎的な力の定着を図る取組を共通実践することで、児童一人一人に基礎的な力が定着し、確かな学力の向上につながるであろう。

### 3 研究内容

#### (1)授業改善

複式学習指導

#### (2)学習の基となる力

さわやかタイム・家庭学習

#### (3)学習を支える力

基本的生活習慣

#### 4 授業実践

##### (1) 授業改善（複式学習指導）

###### ① 研究授業

第1回研究授業：6月20日（水）6校時

5年2名・6年4名

授業者 我如古 光広

指導助言 八重山教育事務所

前泊 竹孝 指導主事



（図1） 5・6年授業の様子

第2回研究授業：9月18日（火）6校時

3年2名・4年4名

授業者 大城 竜二

指導助言 八重山教育事務所

前泊 竹孝 指導主事



（図2） 3・4年授業の様子

第3回研究授業：10月23日（火）5校時

1年4名・2年1名

授業者 西島本 貴子

指導助言 石垣市教育委員会

前泊 康史 指導主事



（図3） 1・2年授業の様子

###### ② 学校支援訪問（教科訪問）要請

12月19日（水）5校時

1・2年（5名）授業者 西島本 貴子

3・4年（6名）授業者 大城 竜二

5・6年（6名）授業者 我如古 光広

指導助言 沖縄県教育庁義務教育課学力向上推進室 大里 元児 主任指導主事

沖縄県教育庁義務教育課学力向上推進室 山城 高雄 指導主事

###### ③ ガイド学習（授業の流れの統一化）

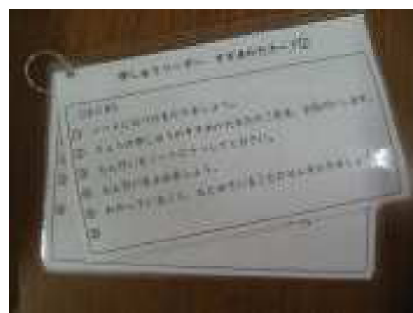
〔1・2年〕

〈取組〉

○ガイド学習は、一斉指導時に行い、慣れるまで、学習リーダーを2年生中心に固定化する。

○今年度は、カード形式の「すすめかたカード」

（図4）を活用。



（図4） すすすめかたカード

〈成果と課題〉

◇ガイドを活用することで、授業の流れがパターン化でき、統一化が図られた。

◇間接指導時に、ある程度、自分たちで進められるようになってきた。

◆1年生の1学期は、ひらがなや数字のおけいこが中心になるので、ガイド学習を活用するのが難しい。

◆学年1名だとあまりガイド学習の必要性を感じない。

〔3・4年〕

〈取組〉

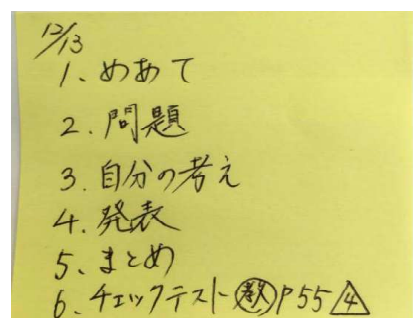
- 学習リーダーを輪番にし、全員が授業の中心的役割を果たすようにしている。
- 授業の流れをある程度決めておくことで、教師が隣学年で授業していても自分たちで進めることができる。
- 授業は「ガイド学習の進め方」(図5)によって進めるが、学習内容によって、付箋紙(図6)を配布した。

〈成果と課題〉

- ◇教師がいなくても自分たちで考えて進めることができるようになった。
- ◇教師にゆとりができることで、思考が深まるタイミングで、児童に関わることができるようになった。
- ◆理解度や進み具合の差が大きいときに、リーダーが進めることができない。
- ◆全員がつまずいたとき、解決策が見いだせず、あきらめてしまうことが多いので、手立てが必要である。

| 師数ガイド学習の進め方 |                                    |
|-------------|------------------------------------|
| ①           | ①問題をノートにうつしてください。                  |
| ②           | ②一緒に問題を読みましょう。                     |
| ③           | ③わかっていることと求めていることとにしろしをつけましょう。     |
| ④           | ④自分の考え(式や答え)を書きましょう。               |
| ⑤           | ⑤ホワイトボードに自分の考えをまとめてください。           |
| ⑥           | 時間は10分間です(10時0分までです)。              |
| ⑦           | ⑦※分からなくて困っている人はいないか確認する。           |
| ⑧           | ⑧次に、全体の学習に入ります。ホワイトボードを黒板にはってください。 |
| ⑨           | ⑨〇〇さんから発表をお願いします。                  |
| ⑩           | ⑩〇〇さんに質問はありませんか。                   |
| ⑪           | ⑪〇〇さんとちがう考えの人は、発表をお願いします。          |
| ⑫           | ⑫これから、今日の学習をまとめます。                 |
| ⑬           | ⑬めめてに対して、分かったことをみんなでまとめましょう。       |
| ⑭           | ⑭今日のまとめは~~~~です。まとめを書いてください。        |
| ⑮           | ⑮チェックテストを行います。                     |
| ⑯           | ⑯教科書〇ページの〇番をやってください。               |
| ⑰           | ⑰※時間があれば計算スキルを行う。                  |
| ⑱           | ⑱解答を行います。                          |
| ⑲           | ⑲今日の学習を振り返って、分かったことや気づいたことを書きましょう。 |

(図5) ガイド学習の進め方



(図6) 付箋紙

〔5・6年〕

〈取組〉

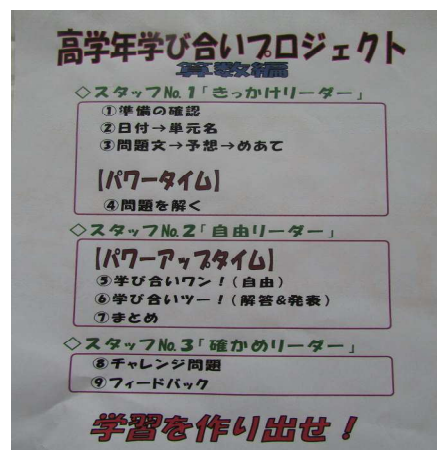
- 学習リーダー(一週間交替)をおき、授業の流れが分かるプリントをもとに学習を進めることで、全員が授業の中心的役割を果たすようにしている。
- 授業構成を固定化し、タイマーを表示することで授業がスムーズに行え、タイムマネジメントもしやすくなる。
- 授業の流れが全体で確認できるようにし、掲示物(図8)を作成した。

〈成果と課題〉

- ◇授業に向かう児童の姿勢が積極的になり、自分たちで考えて動けるようになってきた。
- ◇児童同士、協力し学び合えるようになったため、教師が自由に動けるようになった。
- ◆視点を変えたり、更なる深まりなどを求めたりする場合は教師の関わりが必要である。

- ①単元名/回数
- ②問題文
- ③予想
- ④めあて(例文)
- ⑤PT(パワータイム):個人
- ⑥PAT(パワーアップタイム):全体(発表・練り合い)
- ⑦まとめ
- ⑧チャレンジ(確認問題)
- ⑨フィードバック(振り返り)

(図7) プリントの内容



(図8) 掲示物

\*ガイド学習について、学校全体で共通確認し、学級の実態に応じた進め方で実践することができた。

#### ④同単元や同内容指導の設定（一例）

##### 【研究授業 10 / 23（火）】

- ・ 1 年「どちらがおおい」
- 2 年「みずのかさのたんい」（みずのかさをはかろう）

##### 【研究授業 9 / 18（火）】

- ・ 3 年「大きな数のしくみ」（10000 より大きい数を調べよう）
- 4 年「大きな数のしくみ」（1 億より大きい数を調べよう）

##### 【研究授業 6 / 20（水）】

- ・ 5 年「小数のわり算」
- 6 年「分数のわり算」

#### <利点>

- 教材，教具作りがまとめてできるので時間を有効に使える。
- 下級生が上級生の授業を見ることで，学習の見通しが持てたり，上級生が下級生の授業で復習できたり，複式学級のよさが生かせる。
- 内容によっては，一部，一緒に活動できる部分もある。

#### <欠点>

- 指導計画の見直しや調整には，十分な教材研究が必要である。
- 単元内容によっては，一部未習内容が含まれている場合もある。
- 単元によっては，学期をまたがるので，テストの準備が必要である。

#### (2) 学習の基となる力

##### ①さわやかタイム

朝の帯タイムを通して，学習規律の確立を目指し，基礎・基本の定着を図る。

|           | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  |
|-----------|----|----|----|----|----|
| 8：20～8：25 | 音読 |    |    |    |    |
| 8：25～8：35 | 漢字 | 計算 | 漢字 | 漢字 | 計算 |

4 月中は，全児童で一斉に行い，共通指導ができるように互見を行った。

#### 〔音読〕

「今月の詩」や国語の教科書を音読している。月の終わりには，校長室に行き，音読検定を行う。

#### 〔漢字〕

漢字ドリルは，学期セットではなく上下セットを利用し，できるだけ前倒して漢字の学習ができるようにした。

高学年になると，空書き，写し書きと自分たちで学習を進められるようになってきた。

#### 〔計算〕

各学級で工夫し，まず計算等，四則計算を中心に計算の習熟を図っている。

まず計算は，4 月にノートを配り，1 年間の記録がわかるようにした。



（図 9） まず計算の様子

## 〔低学年の実践例〕

さんすうセットに入っているたしざんやひきざんのカードを活用して、計算の習熟を図った。

- ①カードの式 ②答え ③裏で答えの確認
- ④合っていれば次のカード。間違えたらもう一度。

まず計算と同じようにタイムも記録。

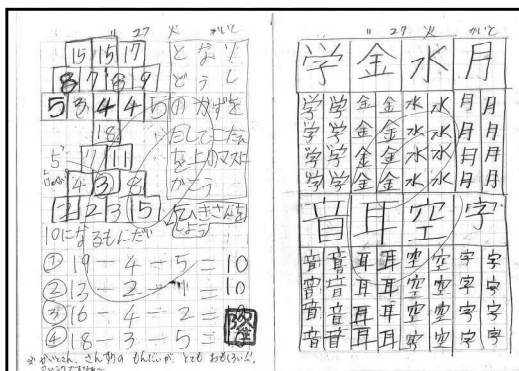


(図10) カード活用の様子

## ②リレーノート

(家庭学習ノート)

各学級にリレーノート(図12)を準備し、当番で、家庭学習を記入する。点検は、校長・教頭が行う。それぞれのよさが見え、アドバイスの共有が図られる。児童は、自分の番がくると丁寧に取り組み、アドバイスを楽しみにしている。



(図11) リレーノートの様子



(図12) リレーノート

## ③まいふな課題

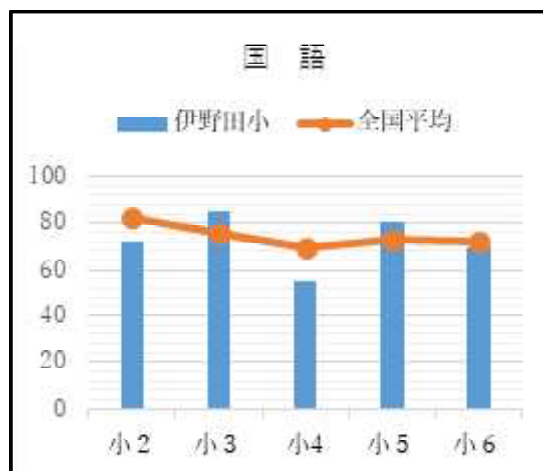
金曜日には、週末課題として、校長から作文の課題が出される。自分の思いを文で表現できるよう取り組んでいる。紹介したい文は、校長室前の掲示板(図13)に掲示され、児童の励みとなっている。



(図13) 校長室前掲示板

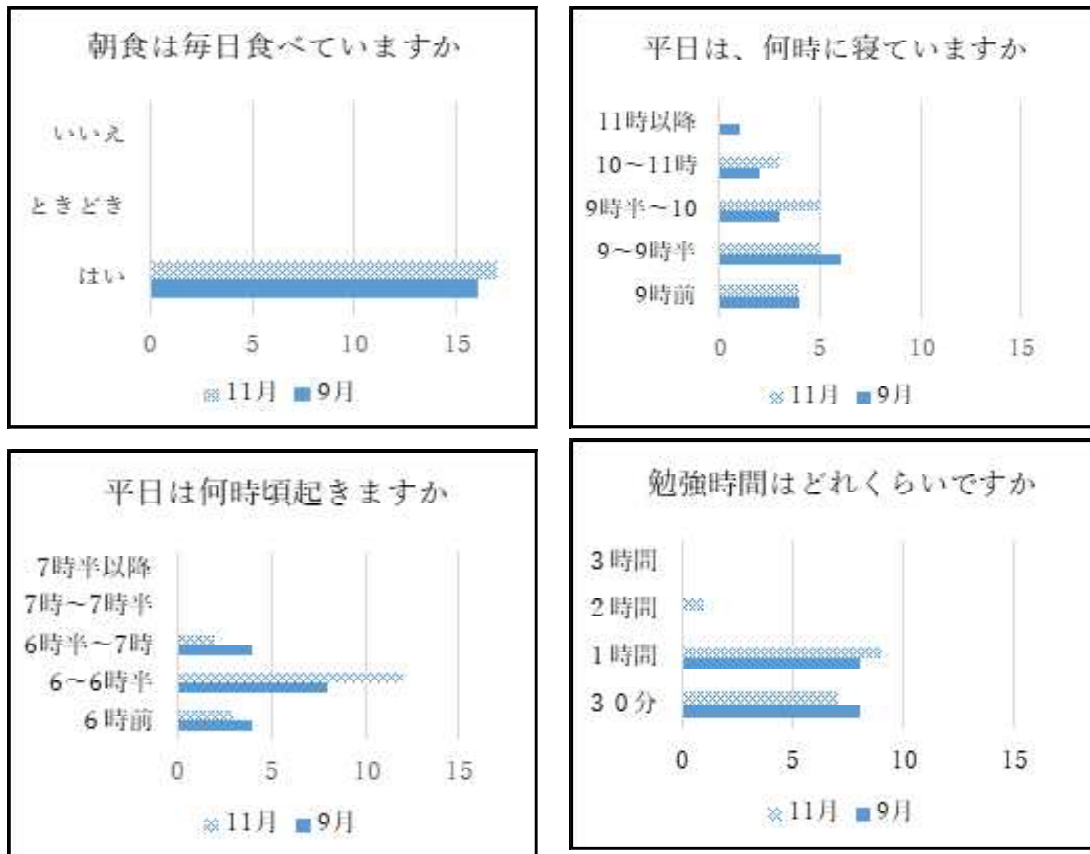
## 5 調査・アンケート結果

### (1)標準学力検査



調査後すぐに結果分析を行い、改善支援計画を立てて授業改善を図った。また、補習等の時間を活用して継続的に指導している。

## (2) 生活アンケート



生活実態調査を実施・把握し、学校と家庭が連携して、児童のよりよい生活習慣を身につけさせていくよう取組を行った。

## IV 成果と課題

### 1 成果

- 複式の授業づくりのために学習形態を探りながら、ガイド学習等の手法を積極的に取り入れ、研究・検証することで児童の実態に応じた学習活動を展開することができた。
- 授業において一人学びからグループで練り合う場面を意図的に設定し、話し合うことで自らの学びを深め・広げることが出来つつある。
- 数学的な活動を工夫することで、活動が自分たちのものとなり、主体的な学びに近づきつつある。
- 研究体制を一人一担当と分担しながらも、授業研究会後にはそれぞれの助言等を共有することで、研究が充実し活性化した。

### 2 課題と方策

- 教師の手立てにより学び合いが成立しているので、間接指導時においても答えの教え合いにならないよう工夫が必要である。
- 複式指導における「わたり」は、児童の反応に大きく左右されるので、より多くの学習のパターンを考える必要がある。
- 職員数が少ないため、意見も限られてくる。今後も外部講師を招いたり、積極的に研修会に参加し、情報収集する必要がある。
- ホームページ等を活用し、研究を発信することで、より多くの小規模校等と情報共有を図りたい。



# 勉強時間はどれくらいですか

